

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2305		
科目名	競技スポーツ方法実習Ⅰ		
担当教員	佐藤 秀明		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1006	単位区分	選,必
授業形態	実習	単位数	1
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP4 - F〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP2 - A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP4 - I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 F1 探究と論拠（35%） F2 課題解決（35%） I1 理解・分析と読解（5%） I2 量的分析（10%） I3 情報分析（10%） A2 異文化適応（5%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	通常、自身のスポーツ実践活動においては、学習者の立場から自らの開発能力を中心に分析が行なわれますが、競技スポーツ方法実習では、自身がもしコーチなどの指導者の立場に立った時に、どのように指導を行うかということについて、開発能力に関する学習を行います。本授業で行う開発・開発能力分析の往復は、競技横断的なコーチング基礎能力を向上させることとなります。これらの活動内容は、開発能力分析報告書や授業シート等に記載し、授業時間内での分析方法及び分析結果に関する反省的議論を通じて、自身の開発能力の向上を目指します。授業形態は、実習（講義含む）形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード 開発能力、コーチング、運動感覚能力の活性化		
授業の趣旨	■副題 コーチングする際に開発能力を最適に発揮できるようになることを目指し、どのような競技のコーチにも共通して求められる4つの基礎的能力を学修します。 ■授業の目的 本授業の目的は、自身がもしコーチなどの指導者の立場に立った時、どのような指導を行う		

	かということについて、創発・促発能力分析の往復を通して（授業時間内での分析及び分析結果に関する反省的議論を通じて）、促発能力（教える能力）を向上させるための知識や態度を修得することです。 ■授業のポイント 学習者に運動を「教える」際に、コーチとして身に付けておく必要がある要素を細かく学習していきます。具体的には、「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」の4つの能力が、どのような能力なのかを詳細に検討していきます。通常のコーチングでは、それらの能力は、瞬時に発揮されていくものであり、それぞれの能力を運動させていかなければならないものでもありますが、本授業では、個別に検討します。これらの能力が効果的に発揮されるためには、自身が運動をどのようにして行うことができるようになったのか、なぜ上手く行うことができなかったのかを、十分に分析できていることが前提となります。それらは、「競技スポーツ実習」や「競技スポーツ習得実習」で取り扱われている内容です。運動を教えることと運動を行うことは表裏一体であるとも言えますので、自身の運動発生に関する分析が十分でない学生は、本授業が始まるまでに、「競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」や「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」の復習を行っておくことをおすすめします。 本授業は、運動を「教える」ために必要な基本的な要素を学習していきます。全15回のうち2回程度は実技を予定しています。講義と実技を運動させ皆さんが「教える」ことを主体的に考えることができるように授業を展開していきます。	
総合到達目標	■運動を「教える」際に、どのような競技のコーチにも共通して求められる基礎的能力を身につけるために、「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」の4つの能力について理解し、それらの教える能力を活かせるコーチング方法を修得する。 ・スポーツ実践活動で求められる創発能力と促発能力をコーチの立場から説明することができる。【知識】（第1回目・2回目及び第15回目授業） ・運動特性を踏まえ、コーチとして、「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」を意識したコーチングを実施できる。【技能】（第3回目から14回目授業） ・「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」それぞれの課題に対して予習を行い、授業で実践し、復習するサイクルを示すことができる。【態度】（第3回目から14回目）	
成績評価方法	■促発能力分析報告書4回（40%）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3 （評価の観点）本科目で学習する4つの各能力について、予習や授業内容を踏まえ、各能力で求められている内容を理解しているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■授業シート（30%）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3・A2 （評価の観点）予習を適切に行っていることを踏まえ、授業中に示される課題に対し、考えを整理することができているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■授業参加度（30%）：適用ルーブリック （評価の観点）発言や質問内容、意見の交換など、授業構築への参加の記録を確認します。 （フィードバックの方法）必要に応じて、参加の記録を開示します。	
履修条件	「競技スポーツ実習Ⅰ SCS 1301」（1年次前期配当）、「競技スポーツ実習Ⅱ SCS 1302」（1年次後期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅰ SCS 1303」（1年次前期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅱ SCS 1304」（1年次後期配当）を履修していることが望ましい。	
履修上の注意点	コーチ（指導者）には、運動技術を効果的に「教える」能力が求められます。「教える」ためには、自身が運動をどのように行うのか、どのように行えるようになったのかを十分に分析しておく必要があります。それらの内容は、「競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」や「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」で学修している内容ですので、受講に先立ち、それらの講義内容を改めて整理しておきましょう。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 本授業で扱う「運動創発能力」と「促発能力」とは（科目概要の説明および授業の進め方の説明を含む） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。「競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」、「競技スポーツ方法実習Ⅰ・Ⅱ」「スポーツ運動学原論」で学修する、運動創発能力と促発能力とはどのような能力のことを指すのか説明できるようになる（F1、F2）。 ③予習（30分） 本シラバスの内容を一読し、「競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」や「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」で作成した「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」を活用して授業内容の全体像を把握する。また「スポーツ運動学原論」の授業内容を振り返って、学修した運動感覚的概念を説明できるようにしておく。

	④復 習 (30分) 授業ノート(授業内配布資料)を振り返り、第2回目の授業で促発能力を構成する概念をさらに具体例を例示して説明できるようにしておく。
2	①授業テーマ コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」とは ②授業概要 「スポーツ運動学原論」で学修する運動創発能力と促発能力に着目し、促発能力としての「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」といった指導者に求められる能力について説明できるようになる(F1、F2)。 ③予 習 (30分) 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の内容を見返してくる。 ④復 習 (30分) 授業ノート(授業内配布資料)を振り返り、第3回目の授業で促発能力を構成する概念をさらに具体例を例示して説明できるようにしておく。
3	①授業テーマ 「観察能力」を構成する能力について① ②授業概要 促発能力としての「観察能力」は、「テキスト発見能力」「対私的意味構造の観察能力」「情況的意味構造の観察能力」といった能力から構成されることを具体例を挙げて説明できるようになる(F1、F2)。第4回目の授業で行う実習の準備を行う(I3)。 ③予 習 (30分) 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目の授業、及び第13回目の授業内容を見返してくる。 ④復 習 (30分) 授業ノート(授業内配布資料)を振り返り、第4回目の授業で観察能力を構成する概念を用いて実習を行う準備をする。
4	①授業テーマ 「観察能力」を構成する能力について② ②授業概要 促発能力としての「観察能力」は、「テキスト発見能力」「対私的意味構造の観察能力」「情況的意味構造の観察能力」といった能力から構成されることを実習を通して説明できるようになる(F1、F2)。実習で行った内容を「促発能力分析報告書」に記入できるようになる(F1、F2、I2、I3、A2)。 ③予 習 (30分) 第3回の授業で配布される「促発能力分析報告書」を確認し、実習を行う準備を整える。 ④復 習 (30分) 「促発能力分析報告書」を基に、第5回目の授業で観察能力を構成する概念をまとめる準備をする。
5	①授業テーマ 「観察能力」を構成する能力について③ ②授業概要 促発能力としての「観察能力」は、「テキスト発見能力」「対私的意味構造の観察能力」「情況的意味構造の観察能力」といった能力から構成されることを実習を踏まえて説明できるようになる(F1、F2)。また実習の結果が整理された「促発能力分析報告書」を用いてさらに具体的に説明できるようになる(F1、F2、I2、I3、A2)。 ③予 習 (30分) 第4回目の授業で記入した「促発能力分析報告書」を確認する。 ④復 習 (30分) 「促発能力分析報告書」を基に、第3回目から第5回目の授業で行った観察能力を構成する概念を整理する。
6	①授業テーマ 「交信能力」を構成する能力について① ②授業概要 促発能力としての「交信能力」は、「共鳴能力」「先行理解能力」「借問能力」といった能力から構成されることを具体例を挙げて説明できるようになる(F1、F2)。第7回目の授業で行う実習の準備を行う(I2)。 ③予 習 (30分) 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の授業内容を見返してくる。 ④復 習 (30分)

	授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、第7回目の授業で交信能力を構成する概念を用いて実習を行う準備をする。
7	①授業テーマ 「交信能力」を構成する能力について② ②授業概要 促発能力としての「交信能力」は、「共鳴能力」「先行理解能力」「借問能力」といった能力から構成されることを実習を通して説明できるようになる（F1、F2）。実習で行った内容を「促発能力分析報告書」に記入できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第6回目の授業で配布される「促発能力分析報告書」を確認し、実習を行う準備を整える。 ④復 習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第8回目の授業で交信能力を構成する概念をまとめる準備をする。
8	①授業テーマ 「交信能力」を構成する能力について③ ②授業概要 促発能力としての「交信能力」は、「共鳴能力」「先行理解能力」「借問能力」といった能力から構成されることを実習を踏まえて説明できるようになる（F1、F2）。また実習の結果が整理された「促発能力分析報告書」を用いてさらに具体的に説明できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第7回目の授業で記入した「促発能力分析報告書」を確認する。 ④復 習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第6回目から第8回目の授業で行った交信能力を構成する概念を整理する。
9	①授業テーマ 「代行能力」を構成する能力について① ②授業概要 促発能力としての「代行能力」は、「住み込み能力」「先行達成能力」といった能力から構成されることを具体例を挙げて説明できるようになる（F1、F2）。第10回目の授業で行う実習の準備を行う（I3）。 ③予 習（30分） 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の授業内容を見返してくる。 ④復 習（30分） 授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、第10回目の授業で代行能力を構成する概念を用いて実習を行う準備をする。
10	①授業テーマ 「代行能力」を構成する能力について② ②授業概要 促発能力としての「代行能力」は、「住み込み能力」「先行達成能力」といった能力から構成されることを実習を通して説明できるようになる（F1、F2）。実習で行った内容を「促発能力分析報告書」に記入できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第9回目の授業で配布される「促発能力分析報告書」を確認し、実習を行う準備を整える。 ④復 習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第11回目の授業で代行能力を構成する概念をまとめる準備をする。
11	①授業テーマ 「代行能力」を構成する能力について③ ②授業概要 促発能力としての「代行能力」は、「住み込み能力」「先行達成能力」といった能力から構成されることを実習を踏まえて説明できるようになる（F1、F2）。また実習の結果が整理された「促発能力分析報告書」を用いてさらに具体的に説明できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第10回目の授業で記入した「促発能力分析報告書」を確認する。 ④復 習（30分）

	「促発能力分析報告書」を基に、第9回目から第11回目の授業で行った代行能力を構成する概念を整理する。
12	①授業テーマ 「処方能力」を構成する能力について① ②授業概要 促発能力としての「処方能力」は、「道しるべ設定能力」「運動感覚呈示能力」「促発開始能力」といった能力から構成されることを具体例を挙げて説明できるようになる（F1、F2）。第13回目の授業で行う実習の準備を行う（I3）。 ③予 習（30分） 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の授業内容を見返してくる。 ④復 習（30分） 授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、第13回目の授業で処方能力を構成する概念を用いて実習を行う準備をする。
13	①授業テーマ 「処方能力」を構成する能力について② ②授業概要 促発能力としての「処方能力」は、「道しるべ設定能力」「運動感覚呈示能力」「促発開始能力」といった能力から構成されることを実習を通して説明できるようになる（F1、F2）。実習で行った内容を「促発能力分析報告書」に記入できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第12回目の授業で配布される「促発能力分析報告書」を確認し、実習を行う準備を整える。 ④復 習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第14回目の授業で処方能力を構成する概念をまとめる準備をする。
14	①授業テーマ 「処方能力」を構成する能力について③ ②授業概要 促発能力としての「処方能力」は、「道しるべ設定能力」「運動感覚呈示能力」「促発開始能力」といった能力から構成されることを実習を踏まえて説明できるようになる（F1、F2）。また実習の結果が整理された「促発能力分析報告書」を用いてさらに具体的に説明できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 第13回の授業で記入した「促発能力分析報告書」を確認する。 ④復 習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第12回目から第14回目の授業で行った処方能力を構成する概念を整理する。
15	①授業テーマ 競技スポーツ方法実習Ⅰのまとめ ②授業概要 コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」は「観察能力」「交信能力」「代行能力」の3つの能力を伝え手の基礎的な促発能力としながら、運動伝承の重要な能力としての「処方能力」を含めて構成されることをこれまでの授業内容を振り返り説明できるようになる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習（30分） 「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の授業内容、4回分の「促発能力分析報告書」から総括できるように準備する。 ④復 習（30分） 本授業の内容を再確認し、競技スポーツ方法実習Ⅱの準備を行う。
関連科目	「競技スポーツ実習Ⅰ SSCS 1301」（1年次前期配当）、「競技スポーツ実習Ⅱ SSCS 1302」（1年次後期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅰ SSCS 1303」（1年次前期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅱ SSCS 1304」（1年次後期配当）、「スポーツ運動学原論 SSCS2329S」（2年次配当）、「競技スポーツ方法実習Ⅱ SSCS 2306」（2年次後期配当）
教科書	ファイルを配布し、資料を収納していきます。
参考書・参考URL	開講時に紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。

	■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	

